



安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2022/12/05
SDS整理番号 12041250

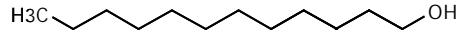
製品等のコード : 1204-1250、1204-1380

製品等の名称 : ラウリルアルコール（ドデシルアルコール、ドデカン-1-オール）

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途（当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。）
界面活性剤、合成中間体、可塑剤など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	
可燃性固体	: 区分に該当しない
自然発火性固体	: 区分に該当しない
健康に対する有害性	
皮膚刺激性/刺激性	: 区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分2B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 区分2（肺）
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期（急性）	: 区分1
水生環境有害性 長期（慢性）	: 区分1

注意喚起語：警告

危険有害性情報

眼刺激
肺の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】
粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。

【応急措置】
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露した時、又は気分が悪い時：医師に連絡すること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。

漏出物を回収すること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	：	化学物質
化学名	：	ラウリルアルコール （別名）1-ドデカノール、ドデシルアルコール、 ドデカン-1-オール、アルコールC-12、 n-ドデカノール、n-ドデシルアルコール （英名）Lauryl alcohol、1-Dodecanol、Dodecyl alcohol、 1-Dodecanol（TSCA名称）、Alcohol C-12、n-Dodecanol、 n-Dodecanol、Dodecan-1-ol（EC名称）
成分及び含有量	：	ラウリルアルコール、97.0%以上
化学式及び構造式	：	CH ₃ (CH ₂) ₁₀ CH ₂ OH、C ₁₂ H ₂₆ O、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	186.34
官報公示整理番号	：	(2)-217
化審法 安衛法	：	公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	：	112-53-8
TSCA(USA)	：	登録済、ACTIVE
EINECS(EU)	：	登録済（203-982-0）
AICS(Australia)	：	登録済
DSL(Canada)	：	登録済
ECL(Korea)	：	登録済（KE-12888）
PICCS(Philippines)	：	登録済
IECSC2013	：	登録済
危険有害成分	：	ラウリルアルコール

4. 応急措置

吸入した場合	：	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	：	皮膚を流水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
目に入った場合	：	直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
飲み込んだ場合	：	口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	：	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	：	本製品は可燃性である。 粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧など。 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	：	棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。）
特有の危険有害性	：	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	：	火元への燃焼源を遮断する。 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	：	消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ： 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
- ： 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
- ： 風上から作業し、粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しない。
- ： 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。

環境に対する注意事項	： 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。 ： 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 ： 環境への排出を避けること。
回収、中和	： 漏洩物が固体の場合、これを掃き集める。液状の時は、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。 ： 後で適正に廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	： 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	： 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 ： 周辺の発火源を速やかに取除く。 ： 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	
技術的対策	： 裸火禁止。強力な酸化剤との接触禁止。 ： 粉じん、ミスト、蒸気の発生を防止する。 ： 粉じんの堆積を防止する。 ： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
局所排気・全体換気	： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 ： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 ： 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 ： 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 ： 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 ： 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
保管条件	： 直射日光や高温を避けて保管する。 ： 容器を密閉して冷暗所に保管する。 ： 施錠して保管する。
混触危険物質	： 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
容器包装材料	： 強酸化剤（硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなど） ： ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：	日本産衛学会 ACGIH
設備対策	： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 ： 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（ニトリル製、ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 ： 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 ： 取扱い後はよく手を洗う。 ： 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	： 白色塊状又は透明液体（保管温度が約24 超の時は液体）
臭い	： わずかな特異臭（芳香臭）
pH	： データなし
融点	： 約24
凝固点	： 19.0～25.0
沸点	： 264
引火点	： 136（クリーブランド開放式）
可燃性	： 可燃性
爆発範囲	： 下限 0.3vol%、 上限 2.6vol%

蒸気圧	： 0.024 hPa (20)
相対ガス密度（空気 = 1）	： 6.4
密度又は相対密度	： 0.826 g/cm ³ (30)
比重	： データなし
溶解性	： 水にほとんど溶けない(混和しない)(0.0004%、25)。 エタノール、ジエチルエーテル、クロロホルム、アセトンに 溶ける（混和する）。
オクタノール/水分配係数	： 5.13
発火点	： 275
分解温度	： データなし
粘度	： 10 mPa・s (= 10cps) (37)
動粘度	： データなし
粒子特性	： データなし
GHS分類	
可燃性固体	： 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告（UNRTDG）のクラス4.1（可燃性固体）にも該当しないことから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	： 発火点は275（Lide, 88th, 2007）で70 超であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。

10．安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）

危険有害反応可能性	： 通常取扱条件において安定である。
避けるべき条件	： 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
混触危険物質	： 高熱、日光、裸火、静電気、スパーク
危険有害な分解生成物	： 強酸化剤（塩素酸Na、過塩素酸Na、過酸化水素水、硝酸NH ₄ 、硝酸Naなど）
	： 熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素ガスを発生する。

11．有害性情報

急性毒性	： 経口 ラット LD50>12.8 mL/kg (10,600 mg/kg) (SIDS(1992)) 区分に該当しない。 経皮 モルモット LD50=10 mL/kg (8,309 mg/kg) (SIDS(1992)) 区分に該当しない。
皮膚刺激性/刺激性	： 吸入（蒸気）分類できない。 吸入（粉塵、ミスト）分類できない。 区分に該当しない。 ヒトに対する4時間皮膚刺激性 / 腐食性試験（OECD TG 404、GLP）で、「not irritating」（IUCRID（2000））であることから、区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	： 本物質をそれぞれ68.9%、63.3%含む市販ラウリルアルコールA、Bに対する、ウサギを用いた眼刺激性試験で「mild irritation（主に結膜において）」（SIDS（1992））であり、14日後にはすべて回復したことから、区分2Bとした。 眼刺激（区分2B）
呼吸器感受性	： 分類できない。
皮膚感受性	： 分類できない。 ヒト（ボランティア、25人）に対するMaximization試験で「not sensitizing」（IUCRID（2000））のデータがあるが、List2の情報源であり、データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	： 分類できない。
発がん性	： 分類できない。
生殖毒性	： 主要な国際的評価機関による評価がない。 分類できない。 ラットを用いた反復投与毒性試験と生殖 / 発生毒性スクリーニング試験を組み合わせた試験（OECD TG 422、GLP）で、「親毒性としては、妊娠率がわずかに減少したが、統計的に有意ではなく、妊娠期間に変化はなく、生殖器官の異常も観察されなかった。発生毒性としては、出生率や児の体重、死亡率、性分布に変化はなく、剖検においても異常は認められなかった」（SIDS（1992））との記述があるが、簡易試験であるため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	： ラットを用いた吸入暴露試験で、「肺刺激の兆候、軽度の呼吸困難、肺の中の軽度の出血」（SIDS（1992））を生じる旨の記述があり、いずれも区分2のガイダンス値の範囲内でみられているため、区分2（肺）とした。

特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	肺の障害のおそれ（区分2） ： 分類できない。 ラットを用いた反復投与毒性試験と生殖/発生毒性スクリーニング試験を組み合わせた試験（OECD TG 422、GLP）で、「病理学的な影響は認められなかったが、白血球数の減少、血漿遊離型コレステロールの減少がみられた」（SIDS（1992））旨、記述されている。血液への影響は区分2の範囲外で認められるため、分類できない。
誤えん有害性	： 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	藻類（セネデスムス）の96時間EC50 = 0.97mg/L（SIDS, 1998）から、区分1とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	水生生物に非常に強い毒性（区分1） 急性毒性区分1であるが、生物蓄積性がある（LogKow = 5.13、PHYSPROP Database, 2008）と推定されることから、区分1とした。 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性（区分1）
残留性・分解性	： データなし
生物蓄積性	： 高濃縮性。Log Kow = 5.13
土壤中の移動性	： データなし
オゾン層への有害性	： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 （参考）燃焼法 可燃性溶剤に混合し、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。
汚染容器及び包装	： 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号： 171

国際規制

海上規制情報（IMDGコードの規定に従う）

UN No. : 3077
 Proper Shipping Name : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
 (Dodecanol-1-ol)
 Class : 9 (有害性物質)
 Sub risk : -
 Packing Group : III
 Marine Pollutant : Yes (該当)
 TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE
 POLLUTANT CATEGORY : Y (直鎖脂肪族アルコール(炭素数が八以上のもの))
 Limited Quantity : 5kg

航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）

UN No. : 3077
 Proper Shipping Name : Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s.
 (Dodecanol-1-ol)

Class : 9
 Sub risk : -
 Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報（特段の規制なし）

海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等

	を定める告示に従う)
国連番号	: 3077
品名	: 環境有害物質（固体）（他に品名が明示されていないもの）
クラス	: 9
副次危険	: -
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類	: Y（直鎖脂肪族アルコール（炭素数が八以上のもの））
少量危険物許容量	: 5kg
航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）	
国連番号	: 3077
品名	: 環境有害物質（固体）（他に品名が明示されていないもの）
クラス	: 9
副次危険	: -
等級	: III
少量輸送許容量	: 30kg（包装込みの質量）
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 非該当。 ただし、R7年4月1日以降、次のように該当 名称等を表示すべき危険物及び有害物 「ドデカン-1-オール、対象重量%は 1」 名称等を通知すべき危険物及び有害物 「ドデカン-1-オール、対象重量%は 1」 （別表第9）
化審法	: 優先評価化学物質 No.171（官報公示日：2014/04/01） 「アルカノール（C = 10～16）（C = 11～14のいずれかを含むものに限る。）」に包含（包含前の通しNo.104）。 優先評価化学物質の評価対象；生態影響
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 指定可燃物、可燃性固体類(3000kg)（法第9条の4、政令別表第4）
化学物質排出管理促進法（PRTR法）	: R5年3月31日まで 第一種指定化学物質、1-273、 「1 - ドデカノール（別名ノルマル - ドデシルアルコール）」 ただし、R5年4月1日からPRTR法の対象物質に該当。 ・分類 「第1種指定化学物質」 ・政令番号 「1-315」 ・管理番号 「273」 ・政令名称 「1 - ドデカノール（別名ノルマル - ドデシルアルコール）」
船舶安全法	: 有害性物質
航空法	: その他の有害性物質
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質「直鎖脂肪族アルコール（炭素数が八以上のもの及びその混合物に限る。）」（施行令別表第1）
水質汚濁防止法	: 生活環境項目（施行令第三条第一項） 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 〔排水基準〕160mg/L 以下（日間平均 120mg/L 以下） （注）排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合はそれに従うこと。
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制（別表第1の16項） 第29類 有機化学品 HSコード：2905.17 ・輸出統計番号（2022年版）：2905.17-000 「非環式アルコール並びにそのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体 - 飽和一価アルコール：ドデカン-1-オール（ラウリルアルコール）、ヘキサデカン-1-オール（セチルアルコール）及びオクタデカン-1-オール（ステアリルアルコール）」 ・輸入統計番号（2022年4月1日版）：2905.17-000

「非環式アルコール並びにそのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
 - 飽和一価アルコール：ドデカン-1-オール（ラウリルアルコール）、ヘキサデカン-1-オール（セチルアルコール）及びオクタデカン-1-オール（ステアリルアルコール）」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社	
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)	
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編	
化学大辞典	共同出版	
安衛法化学物質	化学工業日報社	
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版	
化学物質安全性データブック	オーム社	
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版	
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修	
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)	HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター	HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。